

南相馬市新庁舎建設基本設計業務委託に係る
公募型プロポーザル審査結果報告

令和5年3月
南相馬市新庁舎建設基本設計業務委託
プロポーザル審査委員会

1 公募型プロポーザルの目的

本プロポーザルは、新庁舎の建設に必要となる基本設計を実施するに当たり、令和4年8月に策定した「南相馬市新庁舎建設基本計画」を踏まえた上で、市行政の根幹となる新庁舎の整備に向け、現庁舎が抱える様々な問題を十分に把握し、行政DXや環境負荷低減への対応など時代のニーズに即したものとする必要があることから、これに応える柔軟な発想力や豊かな創造力、高い技術力や豊富な経験を有する設計者を選定することを目的とした。

2 選定体制

選定にあたっては、専門的見地からの考察のほか、公平性・透明性を確保するため、南相馬市職員と専門分野の有識者に加え、市民からの外部委員を招いて「南相馬市新庁舎建設基本設計業務委託プロポーザル審査委員会」（以下「審査委員会」という。）を設置し、審査にあたった。

3 審査委員

委員 長	福島大学共生システム理工学類 教授	川崎 興太
副委員 長	南相馬市副市長	新田 正英
委員	有識者	2名
委員	市民代表	3名
委員	市職員	2名
合計		9名

4 選定までの経過

月日	内容
令和4年12月1日	プロポーザル実施公告及びホームページ掲載
12月23日	第1次審査（書類審査）
12月26日	第1次審査 結果通知
令和5年1月31日	技術提案書提出期限
2月15日	第2次審査（プレゼンテーション及びヒアリング） 受託候補者、次点候補者の選定

5 第1次審査

(1) 参加表明者数

4者

(2) 参加資格確認結果

参加表明書等の内容について、4者とも参加資格を満たしていることを事務局にて確認した。

(3) 書類審査

書類審査は会社実績、配置予定技術者の実績・保有資格等について、事務局にて審査を行い（120点満点）、審査委員会において第2次審査への参加を要請する3者を選定した。

(4) 審査結果

事業者名	評価点	結果
株式会社 佐藤総合計画東北オフィス	110.5	第2次審査へ
株式会社 梓設計東北事務所	102.0	第2次審査へ
③社	92.0	第2次審査へ
④社	70.0	—

6 第2次審査

(1) 提案審査

提出された技術提案書についてプレゼンテーション及びヒアリングによる審査を行った（200点満点）。

なお、第2次審査は各者、出席者5名以内、プレゼンテーション30分、ヒアリング30分にて行った。

(2) 審査結果

事業者名	評価点	結果
株式会社 佐藤総合計画東北オフィス	137.0	受託候補者
株式会社 梓設計東北事務所	130.5	次点候補者
③社	122.2	—

※第1次審査の点数は合算せず、第2次審査の点数のみで選定

選定基準である120点以上を得点し、かつ最も高い点数の【株式会社 佐藤総合計画東北オフィス】を受託候補者として選定した。

また、受託候補者の次に点数の高い【株式会社 梓設計東北事務所】を次点候補者として選定した。

7 プロポーザル審査委員会講評

本プロポーザルに参加した3者は、いずれも豊富な知識と実績を有する事業者であり、それぞれが独自の視点で「南相馬市新庁舎建設基本計画」における基本理念と基本方針を整理し、質の高い技術提案をいただきました。

また、プレゼンテーションにおいても、3者とも意欲的な提案を行い、ヒアリングへの的確な対応を行っていただきました。

その審査結果として、最も高い点数を得た【株式会社 佐藤総合計画東北オフィス】を受託候補者として、次いで点数の高かった【株式会社 梓設計東北事務所】を次点候補者として選定しました。

各提案者の主な評価の点としては以下のとおりです。

【順位第1位 受託候補者】株式会社 佐藤総合計画東北オフィス

- 提案の中で唯一、新庁舎運用開始時点での Nearly ZEB 実現に向けた具体策を示し、また、実績を基とした ZEB 達成への積極的な説明に自信が感じられた。
- 災害対応機能について、理解不足の点は見られるものの、震災対応経験に基づく本部機能の放射能防護区画化の考え方など、独自の提案は評価できた。
- 比較的シンプルな形状に低層を組み合わせた庁舎のすがたを、機能との整合にも違和感が少なく説明できており、一定の評価が得られた。
- 全体的な建物の規模感が小さく、会議室数が少なく感じられた。また、気軽に使える打合せスペースなどの提案も少なかった点が懸念された。

【順位第2位 次点候補者】株式会社 梓設計東北事務所

- 新庁舎の位置を積極的に通り側へ持って行くことで、市民への視認性、賑わいの確保、ゆめはつととの連携が考えられていた。
- 環境負荷低減に提案者独自のシステムを用いるなど、環境負荷対応への知識や技術の提案から、要求に応えられる力を感じる説明ができていた。
- 災害対応機能について、災害対策本部の役割が、関係機関が集まり会議を行う場所としての想定にとどまるなど、さらなる理解が必要と思われた。
- 庁舎配置を東に寄せたことで、北西側の駐車場が広い空間となり、庁舎への距離も長くなっていたが、その空間を有効に活用するヴィジョンが乏しかった。

【順位第3位】③社

- 庁舎棟とは別に建物を設けて市民の活用場所とした提案は、精神的にも「役所の施設を借りる」というハードルを低くしており、市民の使い勝手も良いと感じられる提案になっていた。
- 災害対応機能について、理解不足の点は見られるものの、災害対策本部の必要な機能の確保やスペース配置は最も優れていた。
- 図に示されていない構造物が多く、また、イメージと機能説明の整合について実際に設計していくことを踏まえると現実との乖離が懸念された。
- デザイン案として、多くの箇所にガラスが使われている等開放的な提案となっているが、維持管理を含む建設コスト、災害時のリスク、エネルギー効率など実現性への懸念がヒアリングの中で解消されるまでには至らなかった。

各提案者からは、技術の応用例を含めて様々な提案をまとめていただき、庁舎の利用のしやすさ、駐車台数の確保、防災拠点としての機能の実現、環境負荷低減策、内外装デザイン、トータルコスト抑制など、多くの貴重な提案がありました。

優れた提案を作成された提案者の皆様におかれましては、敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。

南相馬市新庁舎建設基本設計業務委託プロポーザル審査委員会

委員長 川崎 興太